

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：持続可能な多自然川づくりに向けた人づくりの取り組み		
水系/河川名：木曾川水系石田川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：10	整備計画流量：70m ³ /s	セグメント：1
事業：河川改修	事業開始年度	令和6年度
目標設定：定性的	段階	C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な)：礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な)：その他		
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催、人材育成		

背景・課題、目標設定

<背景・課題①>

石田川は近年浸水被害が発生しており、早期の河川改修が必要とされている。一方で、河岸が土羽で、瀬と淵の流れの変化が見られるなど良好な河川環境を有している。そのため、治水・利水・環境の調和の取れた川づくりが求められており、地元住民、行政、*自然工法管理士などにより組織された**ベストリバー推進グループ**を設置し、検討会を通じて環境に配慮した河川改修を進めている。

検討会の中で、改修後の河川の流れが単調との指摘があり、**良好な河川環境の創出**を図る必要性が示された。

→【目標①：良好な河川環境の創出】



浸水被害(R5.8)



良好な河川環境



ベストリバー検討会

<背景・課題②>

岐阜県では、土木事務所の配置職員数の減少をはじめとするさまざまな要因により、県職員及び県の川づくりに関わる民間技術者が、現場での実践を積む機会が減少している。また、かつての取組を通じて育った技術者も年齢を重ね、世代交代が進む中で、技術力の低下が懸念されており、**持続的な多自然川づくりのための人材育成**が重要な課題となっている。→【目標②：多自然川づくりを支える技術者の育成】

<目標>

2つの目標【①+②】を達成するため、石田川を題材に、**産・学・民・官**を対象とした**現地勉強会**を開催した。

*自然工法管理士…自然生態系の保全・復元・創出の理念を踏まえ「多自然工法の普及と活用」を効果的に推進するために必要な知識、評価能力、技術を習得した者に付与する資格であり、県知事が認定
平成13年度より実施しており、令和7年4月1日現在の資格取得者数は約2,600名

取り組み内容・対策例(1/2)

<現地勉強会の開催>

産業界(建設業者・建設コンサルタント・製品メーカー)・大学生・地域住民・官公庁(行政職員)を対象に開催した。(座学)

大学の教授を招き、講義を開催、**知見・事例を学ぶ(Input)**

- ・地域と協働しながら進めている石田川の川づくりの概要や設計の考え方
 - ・河川技術者としての河川環境の捉え方や石を活用した河川地形・河床環境の改善アプローチについて
- その後、各グループに分かれ、講義内容を踏まえながら、河床整備に向けた作戦会議を実施した。

(現地実技)

現場でも仮説を立て検討しながら、バンプ工を整備し、多様で**良好な河川環境の創出**を目指した(**Output**)
整備後は、石田川の河川環境の変化や今後の予測について、意見交換を実施した。

工事で発生した石を活用



座学

道路・農政部局の職員も参加 学生も参加



現地実技



意見交換

みんなで川に入り、実際に体を動かす

(参加者からの感想)

- ・実際に河川に構造物を作ることで、水の流動や設置位置の優劣が分かりやすかった。
- ・講義と現場での作業を通じて、多自然川づくりの意義と内容について理解が深まった。経過が楽しみ。

取り組み内容・対策例(2/2)

(整備したバープエ)

整備直後で滞筋に変化が！淵に新たな生態系の創出が期待される！



寄せ石が河岸防御に！



自然の営力に対するアプローチ



左岸と右岸であえてアンバランスに！

(事後評価)

整備後、月1回程度、整備各地点の現場写真を撮影し、経過(川の変化)を参加者へ共有した。



土砂を溜めて寄り洲を形成

参加者からは
「変化が分かって面白い！」
「予想のとおりに変化が起きている」
「形成された淵に魚がいるかも！」
などコメントが寄せられた

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<モニタリング結果>

- ・バープの間隙に土砂が堆積し、バープを覆うように植生が繁茂し始めていた。
- ・バープの間隙において、近年減少傾向にあり、昨年度確認できなかった**県重要種ドンコ**を確認した。



生育環境



ドンコ(県重要種)

礫底や植物帯などの
間隙環境を好む

バープが生息場として機能

<アピールポイント>

- ・多自然川づくりを支える技術者の育成を図りながら、より良い川づくりを進めるために、**PDCAサイクル**を回した。
 - ・講義で知見・事例を学び、各グループに分かれて仮説を立てた(計画(Plan))
 - ・参加者全員で川に入り、実際に体を動かしながら河床整備を実施(実践(Do))
 - ・整備後、川の変化が分かるように、写真を撮影し、参加者へフィードバック(評価(Check))
 - ・起こった変化から、原因を考察し、改善方法を考える(改善(Action))
- ・持続可能な多自然川づくりを実現するため、「みんなで」川に入り、「**楽しみながら**」取り組んだ。座学だけでなく現場で体を動かすことで、理解が深まり、印象にも残る。
- ・河川課職員に加え、道路・農政部局の職員、さらには、建設コンサルタント、建設業者、大学生、地域住民など、多様な主体の参加が得られたことは、**多自然川づくりへの理解を広げ、将来の担い手を育てる種蒔き**となった。



総勢50名近くが参加

<今後の対応方針>

- ・石田川では、引続き調和の取れた川づくりを進めるため、ベストリバー推進グループの取組みを継続する。
自然の営力により、川は変化していくため、現地での意見交換が重要である。
- ・石田川での取組など優良事例を県内へ広げ、**県全体で多自然川づくりを推進**する。
- ・勉強会を開催する事務局として、県内外問わず、**優れた事例や最新の知見を学べるもの**を企画・開催し、**岐阜県の多自然川づくりが持続的に展開できるよう、基盤の強化**を図る。

問い合わせ先 岐阜県県土整備部河川課

電話番号 058-272-8585